

施策評価シート (令和5 年度の振り返り、総括)

作成日 令和6 年 06月 07日

施策 No.	6	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	健康増進課、社会福祉課、高齢福祉課、生涯学習課、都市計画課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,592	77,635	77,578		

施策の目標	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力ある生活を実現します。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	市民意向調査の結果及びスポーツ振興課の集計により把握する。								
成果指標名		単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
市スポーツ施設利用者延人数	目標値	人	575,625	584,500	593,400	602,200	611,200	620,000	620,000
	実績値			364,983	447,338	549,088	554,738		
何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	目標値	%	55.5	56.4	57.3	58.2	59.1	60.0	60.0
	実績値			60.3	59.5	61.2	59.1		
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民はスポーツ・レクリエーションを自主的に行い、日頃から体を動かすよう心掛けます。行政はスポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と、施設等の環境整備の充実に努めます。
-------------------------	--

2. 実行 (Do) →個別事務事業の実施による (事務事業マネジメントシート参照)

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

【市スポーツ施設利用者延人数】

令和5年5月に、コロナが第5類に移行され、市民の意識として、スポーツを通じた健康増進などへの関心はより高くなっており、健康づくりのために意識的に運動をするよう心掛けている市民の割合は高い。(市民意向調査の中で、「健康づくりに取り組んでいること」のうち、意識的に運動するよう心がけている市民の割合の推移は、R2:39.4%、R3:40.7%、R4:40.2%、R5:37.8%となっている。)

しかしながら、コロナは、市民のスポーツ施設の利用に際し大きな影響を及ぼしており、令和5年5月に、コロナが第5類に移行されても、令和5年度の市スポーツ施設利用者延人数は、目標611,200人に対し実績554,738人と目標値を下回った。

令和5年度から、各種スポーツ関係のイベントなども開催できるものも多くなったが、令和4年度と比較すると、利用者が約5,600人増加する程度に留まっている。

「市スポーツ施設利用者延人数の推移」

R3:447,338人(目標値の75.4%)

R4:549,088人(目標値の91.2%)

R5:554,738人(目標値の90.8%)

なお、スポーツ施設利用者がなかなか大幅な増加に転じない要因としては、アフターコロナの中でも、集団での活動を控えている方が多くいることや、令和5年8月までスポーツ交流館がワクチン接種会場となり、使用できなくなっていたこと、そして、令和5年4月から東沼地域体育館が用途廃止となったことや、中村南地域体育館が老朽化などに伴い、利用者が減少となったことも大きく影響していると思われる。

(課題)

- ・施設の利用者増を図るための更なる環境整備の充実を図ることが必要となっている。特に、老朽施設の維持管理及び更新について、検討を進めていかなければならない。
- ・市民ニーズを踏まえた施設の整備を検討して行く必要がある。
- ・関係機関などとの更なる連携強化を図っていく必要がある。

【何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合】

市民意向調査の中で、何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合の推移は、R3:59.5%(目標値:57.3%)、R4:61.2%(目標値:58.2%)、R5:59.1%(目標値:59.1%)と、目標値を上回るか目標値同などの状態が継続できている。

目標値を上回るか目標値同などの状態が継続できているのは、コロナ過においても、免疫力の向上等に繋がるということで、健康・体力保持の意識が高まり、市民のスポーツへの関心が大きくなったことが考えられる。

そうした中で、コロナ禍でも密を回避でき、個人で手軽に行えるウォーキングや筋力トレーニング等を実施する市民は多く、スポーツ教室の種目としても取り入れている。

なお、「栃木県政世論調査」によるスポーツ活動実施率(週1回以上スポーツをしている比率)は、R3:52%、R4:55.7%、R5:52.8%、であり、真岡市におけるスポーツ・レクリエーションの実施率は、県全体よりも高い水準にあるといえる。(ただし、本市の調査は、「日ごろどのようなスポーツ・レクリエーションを行っているか」という設問で行っているため、県が行っている「週何日以上スポーツを実施している」という設問ではないので、単純な比較とはならない。)

(課題)

- ・スポーツ人口の拡大のために、スポーツの普及・啓発を目的とした各種スポーツ教室の開催やスポーツイベントの開催を考えていく必要がある。
- ・スポーツを行っていない市民が、最初の一步を踏み出すきっかけづくりとなるような事業を検討していかなければならない。
- ・各種関係団体などとの更なる連携強化を図っていく必要がある。

(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

【市スポーツ施設利用者延人数】

- ・市民が安心してスポーツを楽しめるよう既存施設の適正な維持管理の徹底を継続していく。
- ・老朽施設のあり方を検討し、適正な維持更新と有効活用などについて協議を進めていく。
- ・総合体育館については、持続可能な管理運営を推進するため、施設老朽調査の結果等を踏まえ、優先順位を早期に決定し、適正な改修などを順次実施していく。
- ・初心者でも気軽に施設を利用できるように、市民目線による丁寧な窓口対応や施設案内などの更なる徹底に努める。
- ・スポーツ施設の予約料納付について、手続きの利便性を向上させるため、オンライン申請の検討を進め、今年度中に方向性を決定する。

- ・アーバンスポーツ等の新たな施設整備について検討を進め、整備方針及び内容について、今年度中に決定する。
- ・ハイトラ運動公園(総合運動公園)については、本市におけるスポーツ・レクリエーション活動の拠点として引き続き南ブロックの整備を推進していく。
- ・南ブロックの硬式兼軟式野球場については、都市計画課などと連携を図りながら令和7年春の供用開始を目指し、併せてオープン時の式典および記念試合などを計画する。

- ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会のスポーツレガシーを継承し、栃木県と連携したスポーツコミッション事業などを活用して大会や合宿の誘致を図っていく。
- ・障がい者スポーツについては、市の福祉関係部署などで実施する各種事業と連携しながら施設の利用促進を図っていく。

【何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合】

- ・幼少期からさまざまなスポーツに触れ、楽しむことで子どもたちの健全育成が推進できることからスポーツ少年団活動などの支援の更なる充実を図っていく。
- ・子どもたちのスポーツ機会を充実させるため、「栃木SCによるこどもサッカー教室」など、プロスポーツ選手などによるスポーツ教室などを継続開催していく。
- ・令和5年と6年に実施した「宇賀神みずき選手によるバレーボール教室」など、真岡市アンバサダーなどによる教室の開催などについて、今後も引き続き実施していく。
- ・スポーツ教室やスポーツイベントの開催にあたり、幅広い世代でスポーツを楽しめるよう、親子や家族で参加しやすい企画を積極的に立案していく。
- ・スポーツ教室などを通じて、子どもから高齢者まで個人でも団体でも気軽にできるニュースポーツを紹介し、普及啓発を図っていくと共に、スポーツ教室修了者に対し、グループ作りの支援や既存団体等への加入を促進していく。

- ・各種スポーツイベントの広報などについて、紙以外の媒体として、ホームページやSNS、デジタルサイネージなど、様々な媒体を使い周知徹底を図ると共に、申込方法についても、デジタルとアナログを併用し、誰でも気軽に申し込みができる体制づくりに努める。
- ・市民ニーズやトレンドを把握するため、スポーツ関係者や各種事業の参加者にアンケートなどを実施していく。(スポーツ教室参加者に、毎年、教室終了後にアンケートを実施しており、集計結果を次回の企画検討に活かしている。)
- ・(スポーツ協会専門部には、今年度、部活動地域移行などの協力についての調査などを実施する。)

- ・スポーツ推進委員に対し、資質向上を図る研修などを開催するとともに各種講習会などへの参加を促していく。(今年度から、研修などに参加した委員には、復命書などを提出してもらい、市のスポーツ推進委員会などで発表をし、情報共有と共に、スポーツの推進を展開できるように考えている。)

- ・多くの方がさまざまな形でスポーツに携われるよう、ボランティアによる各種大会や行事への参加を一般市民や学生に呼び掛ける。(ボランティアの募集拡大に向け、周知方法などを工夫していく。)
- ・「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができることを目的に設立された、総合型地域スポーツクラブ「もかスポーツクラブ」の運営強化に向け、引き続き助言や指導による支援を行う。
- ・障がい者のスポーツ・レクリエーションについては、市の福祉関係部署などで実施するスポーツ関連事業への支援・協力をしていく。

